

目視観察では月を追うごとに大きくなっていった。また7月の追込み網採集では尾叉長28.5～51.4mm, 8月には43.4～45.4mm, 9月には58.0～69.0mmのハマフエフキを得ている。さらに6月2日には場所は異なるが、塩屋湾(図1)の満潮時の水深が2mほどのところにある浮き桟橋の下から、全長25mm前後のハマフエフキをたも網で採集している。

以上の側線の潜水観察や採集結果は、従来の断片的な事実に基づくハマフエフキ幼魚の生活場所や移動の様式についての推測(沖縄水試, 1975aなど)を実証している。すなわち1984年夏季から1985年1月までの間の羽地外海域においては、ハマフエフキ幼魚は9月ごろまではアマモ場を中心とした浅所を生活場所とし、10月以降は徐々に深みへ移動することが明らかになった。このような生活場所の変化は、成長にともなう魚自体の内的な変化に起因していると考えられる。しかし10月は水温が急激に低下する時期であり(図27)、低潮時には水深がきわめて浅くなるアマモ場では大気の影響を受けて、

満潮時に比べて水温がかなり低下すると考えられる。したがって、ハマフエフキ幼魚の10月以降のアマモ場から深みへの移動は、成長による内的な変化に、生活場所の水温降下によるなどの環境の種々の季節変化が加わった結果と推測される。

また11月以降の測線上での観察個体数の減少は、それ以前には面積の限られたアマモ場付近に密集していたので多く観察されたが、その後生活場所の変化にともなって生活範囲が拡大し、まばらな分布になったために観察の機会が少なくなったことによるか、あるいは大半のものが測線よりも沖に移動したことによるのかはわからない。

今後、さらに測線の数や長さを増やした観察と体長組成の変化、食性と餌料環境の関係を把握する調査などを展開する必要がある。

2 水中灯による幼稚仔魚の採集

(1) 方法

採集地点は屋我地島南部の羽地内海側から13mほど突き出した桟橋の突端である(図21)。5月から1月の間に月1～3回の頻度で、夜間の満潮時に500Wの水中灯を点灯して、これに網集する幼稚仔魚を目合い1mmのたも網ですくって採集した。採集日は別の調査の都合で、新月や満月近くの大潮であったり、中潮や小潮の時もあり、一定していない。採集点は満潮時に水深が2m程度で、大潮の干潮時には干出する。採集はあらかじめ満潮の1～2時間前に水中灯を点灯しておいて、

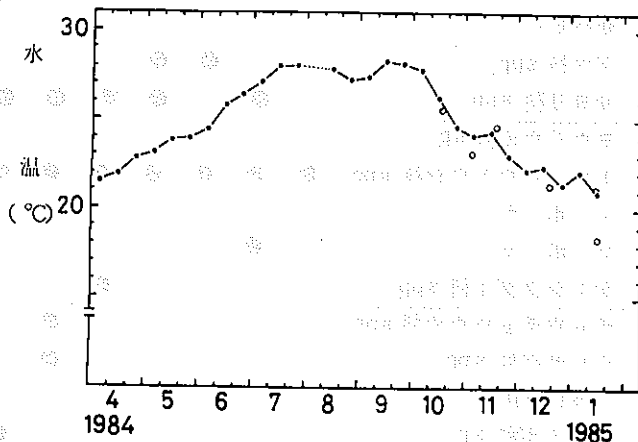


図27 1984年4月から1985年1月の間の那覇港の旬平均定地水温(黒丸)(沖縄気象台資料)と潜水観察時の表面水温(白丸)

表9 水中灯採集で得られた幼稚仔魚

黒丸はその日に出現したことを示す。

魚種※	採集年月日																
	1984		5/17	6/1	6/19~20	7/2	7/12	7/31	8/30	9/12	9/28	10/15	11/13	11/26	12/10	1985	
																1/9	1/22
ミズソ			●														
サッパ							●	●	●	●							
ニシン科 spp.			●	●	●			●			●	●		●			
カタクチイワシ科 spp.			●						●			●					
カライワシ																	
ウナギ sp.																●	●
ウナギ目(レプトセファルス)				●				●									
サバヒー																	
ダツ科 spp.				●	●												
サヨリ科 spp.			●			●	●	●	●								
ヨウジウオ科 sp.																	●
トウゴロウイワシ科 spp.	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マボラ																●	●
コボラ			●														
テンジクダイ科 spp.							●										●
チョウチョウウオ科 spp.									●	●	●	●	●	●	●	●	●
クロサギ科 spp.									●								
ベラ科 sp.																	
ヒイラギ科 sp.																	
フエフキダイ属 spp.			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
フエダイ属 sp.						●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
ヨメヒメジ																	
キンチャクダイ科 sp.																	
オヤビッチャ																	
キス属 sp.																	●
クロダイ属 sp.																	●
シマイサキ科 sp.																	●
アイゴ属 spp.				●													
ハゼ科 spp.			●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ギンボ科 sp.			●														
コチ科 sp.																	●
ウバウオ科 sp.																	●
ダルマガレイ科 sp.																	●
モンガラカワハギ科 sp.																	●
オキナワフグ			●					●	●								

※ 魚種の査定は、魚を選別する際におおまかにおこなったもので、暫定的なものである。